

立ち読み版

# アントレプレナーと支援者の役割



## Interview

慶應義塾大学総合政策学部准教授

ことさか

まさひろ

# 琴坂 将広さん

プロフィール：慶應義塾大学総合政策学部准教授。博士（経営学・オックスフォード大学）。小売・ITの領域における3社の起業を経験後、マッキンゼー・アンド・カンパニーの東京およびフランクフルト支社に勤務。同社退職後、オックスフォード大学サイドビジネススクール、立命館大学経営学部を経て、2016年より現職。著書に「STARTUP 優れた起業家は何を考え、どう行動したか」(共著、NewsPicksパブリッシング)、「経営戦略原論」(東洋経済新報社)、「領域を超える経営学」(ダイヤモンド社)など。

【取材・文】 大橋 信太郎 オトガル株式会社 代表取締役／中小企業診断士 【写真提供】 琴坂 将広

Interview >>> Masahiro Kotosaka

琴坂将広さんは、大学在学中に3社の起業経験があり、卒業後はコンサルティング会社でグローバルに活躍。現在は慶應義塾大学総合政策学部准教授であり、ベンチャー企業の社外取締役を務めるなど、“実践派”の経営学者として研究と実務の両面で活躍しています。

自身の経験や著書について伺い、今後、起業家とその支援者に求められる役割をたずねました。

## 起業家向けの辞書『STARTUP』

—著書『STARTUP 優れた起業家は何を考え、どう行動したか』では、スタートアップの成長段階に応じてケースがまとめられています。

入手できる限りのスタートアップに関する書籍には目を通しました。共著者の堀新一郎さんのほか、著名なスタートアップの経営者やベンチャーキャピタリストの方にも話を伺い、どのようなフォーマットで本を作るのが良いか、議論しました。

抽象的な理論や網羅性よりも、ゼロから始めて事業を軌道に乗せるまでの一貫したストーリーを疑似体験していただくことが、この本の目指した価値でした。大手企業の事業開発担当者の方にも、起業家予備軍の方々にも、また、そうした方々を支援する方々にも参考になる構成を目指しました。

—創業者だけではなく、支援者も意識したのですね。

エコシステムを研究していますが、特にベンチャー企業は内部資源だけでは成長できません。起業家だけでは成長できない。中小企業診断士を含め、弁護士、会計士、弁理士などさまざまなエキスパートと協調して成長していくことが求められます。単に事業を作る、ビジネスモデルを作るに留まらず、社内外に強力な仲間を見つけることも重要です。



堀新一郎、琴坂将広、井上大智著『STARTUP 優れた起業家は何を考え、どう行動したか』(NewsPicksパブリッシング)。投資家が起業家から聞き出し、経営学者と体系化した「成功の原則」を初公開。

—スタートアップを経営する中で、困った時に頼れる辞書のような役割を持ちそうです。

ここ数年に起きている創業のあり方を伝えるために、300人くらいの起業家、支援者と話しました。この本を通じて起業を広めたいという思いがありましたので、取り上げるのは、特殊なスキルや実績がなくても、熱情(パッション)さえあれば真似できるかもしれない、と感ぜられるような事例にしました。「大企業で営業トップでした」、「200件の特許を持っています」といった人を挙げて共感されません。大企業、中堅企業に勤めている人を含めて、誰でもアントレプレナーにはなれるはず。もちろん、本書で取り上げた方々ほど事業を突き詰めて、やり抜くのは並大抵ではありません。

## 社会貢献を軸にキャリアを形成する

—大学在学中に3社起業していますね。

起業というもおこがましいですが、貴重な経験をしたと自負しています。高校生の時に友人とウェブビジネスを立ち上げて、一定の規模のサービスを運営できたことが原体験です。大学に入学してから最初の会社の代表になりました。当時はインターネットが本格的に普及し始めてから数年しか経っていませんでしたので、学生であった私々でも十分に他のシステム会社に対抗できるシステム、サービスを提供

続きは雑誌で